

いろいろな詩（４年）

指導目標

さまざまな詩との出会いをとおして，詩の世界を豊かに広げる。

短い言葉に象徴されている作品の世界を，叙述を基に想像しながら読む。

『いろいろな詩』（本時）

視覚的な表現と，そこに組み立てられた言葉の巧みさを叙述を基にしながら読む。

『おおきな木』

教材について

この教材には大きく分けて二種類の詩作品が取り上げられている。一つは見立てやウイットの飛躍や新鮮さが生命である一行詩など，数編の短い詩で構成されている『いろいろな詩』。もう一つは木の形を視覚的効果にして，方言（大阪弁）を使った『おおきな木』という詩である。

これら二種類の詩作品にふれることで，子どもたちの詩に対する既成概念（短く数行で構成されているものが詩であるという考え）が打ち砕かれ，さらに自由な詩の世界を味わうことができる。行数，視覚的効果の工夫，方言の使用など詩の形はさまざまである。それらの詩を繰り返し音読したり，題（ヘビ・ミドリカナヘビ・ニンジン・ケムシ・ミミズ）から想像したことを自由に発表したり，その詩から受ける感じを話し合ったりすることで言葉のリズムや作品のおもしろさ，イメージを楽しむことができる。また，同じ題で短い詩（一行詩）を書いたり，他の一行詩や視覚的効果のある詩を図書室やインターネットでさがしたりする活動も期待できる。

ふだん，なにげなく目にしているものでも詩人の目を通す（ものの見方や考え方，つまり視点を変える）ことで違った姿を現す（生命が吹きこまれる）。日常の中で見過ごしたり忘れられたりしているものにあらためて目を向け，新たな視点から光をあてることを大切にしたい。そうした活動をとおして，驚きや発見，ものを見つめる目の豊かさと広がり生まれてくる。

ここでの学習は２時間であるが，いろいろな形の詩に子どもたちをふれさせ，自由なイメージを広げさせるなかで新しい詩の世界との出会いを楽しませたい。

学習指導計画（全２時間）

展開・時	学 習 活 動	評価規準と方法
一 次 (本時)	『学習のとびら』を読み，見通しをもつ。 題名からうかんでくることを自由に話し合う。 『いろいろな詩』を繰り返し音読する。 作品のイメージと比較し，そのおもしろさを味わう。 題名で短い詩（一行詩）を書き，読み合う。	関 ：詩の形がさまざまあることに興味をもって読もうとしている。（態度） 言 ：様子がわかるようにはっきりと音読している。（発表） 話聞 ：題名から想像することを話している。（発表） 関 ：見立てのおもしろさを楽しんで読もうとしている。（態度） 読 ：題名と作品のイメージの飛躍を想像しながら読んでいる。（発表・態度） 関 ：自分でも短い詩をすすんで書こうとしている。（ワークシート）

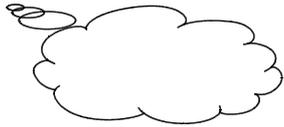
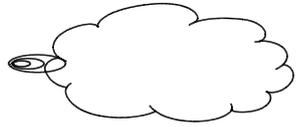
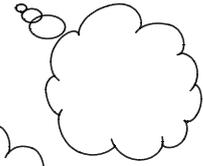
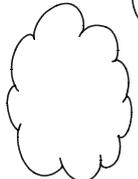
<p>一 次</p>	<p>第2時</p>	<p>『おおきな木』を音読する。</p> <p>読んだ感想を発表し合い，大阪弁のおもしろさやリズムの楽しさに気づく。</p> <p>木の形になっている詩とふつうの形の詩を比較し，その違いについて話し合う。</p> <p>一人一人の音読を聞き合う。</p>	<p>関：視覚的な表現のおもしろさや方言のリズムを楽しみ，すすんで読もうとしている。 (態度)</p> <p>話聞：自分の思いをすすんで発表している。 (発表)</p> <p>読：作品の内容と形式を結びつけて読んでいる。(ワークシート・発表)</p> <p>言：方言のリズムを，音量や速さを工夫しながら読んでいる。(発表)</p>
----------------	------------	---	---

本時の展開 (本時 1 / 2)

目 標

- ・題名からうかぶ様子を自由に想像しながら読むことをとおして，見立てのおもしろさを味わったり，自分なりにイメージして短い詩(一行詩)を書いたりすることができる。

展開例

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 ・ 支 援
<p>1 「学習のとびら」の目あてを読み，どのような学習をするか確かめる。</p> <p>「詩」ってどんなもの？</p> 	<p>子どもたちの詩に対する既成概念(詩は短いけれど数行または連で構成されているという考え)を打ち砕き，詩の形がさまざまあることに気づかせる。</p>	<p>関：詩の形がさまざまあることに興味をもって読もうとしている。(態度)</p> <p>支：詩に対するイメージを自由に発表させ板書する。</p>
<p>2 題名からうかぶことを自由に話し合う。</p> <p>ヘビ </p> <p>ミドリカナヘビ </p> <p>ケムシ </p> <p>°°°</p>	<p>題名だけを見て，自分がもっている印象について自由に発表させる。</p> <p>最初は作品を見せず(教科書を伏せたり閉じたりさせて)，題名だけを提示する。</p>	<p>話聞：題名から想像したことをすすんで話している。(発表)</p> <p>支：ヘビ，ミドリカナヘビ，ケムシ，ミミズについて，カラー写真などを用意して理解を助ける。</p> <p>題名からうかんできたことを自由に発表させ板書する。</p>

3 『いろいろな詩』を音読する。

- ・個々に音読（全編）
- ↓
- ・グループ読み（一編ごと）
- ↓
- ・指名読み（一編ごと）

4 それぞれの詩のイメージを話し合う。

（長さ）ヘビ

長くてかわいい

⇒ こいつは長すぎる。

（色）ミドリカナヘビ

つやつや光ったような緑色

⇒ ペンキ塗り立て!

（色）ニンジン

赤い色

湯上がりのようにほかほか

あたたかい感じ

⇒ おふるあがり

（形・様子・動き）ケムシ

けむくじゃら

ぶしょうな感じ

⇒ さんぱつは きれい

（形・様子・動き）ミミズ

はだかで土の中にいる

シャツが地球，洋服が宇宙

⇒ シャツはちきゅうです。

ようふくはうちゅうです。

どちらも

—まいきりですが

個々に音読する。それから、一編ごとにグループ読み、指名読みなど、さまざまな読みの工夫をして、詩を十分に味わわせる。

声の大きさ、間、アクセント、抑揚などに留意して読ませる。

一編ごとに自分のものの見方と比べさせる。視点を変えてることによって、もののいろいろな面が見えてくるおもしろさに気づかせる。

視点：何かに似ていないか(たとえられないか)。

- ・長さに注目すれば？
- ・色に注目すれば？
- ・形に注目すれば？
- ・様子に注目すれば？
- ・動きに注目すれば？
- ・大きさに注目すれば？

表現：どのように表現すれば(書き表せば)おもしろいか。

言：様子がわかるようにはっきりと音読している。(発表)

関：見立てのおもしろさを楽しんで読もうとしている。(態度)

支：音読の留意点をあらかじめ板書しておく。

読：題名と作品のイメージの飛躍を想像しながら読んでいる。
(発表・態度)

支：詩人と自分のものの見方の違いに気づかせる。

特に、ものごとを対比的にとらえると、二つのものの違いや共通点がわかり、いつもと違った見方ができることに気づかせたい。



<p>5 短い詩(一行詩)を書き，読み比べる。</p> <p>《 板 書 》</p> <p>題</p> <p>ヘビ 児童作品(短冊)</p> <p>.....</p> <p>ミドリカナヘビ</p> <p>児童作品(短冊)</p> <p>.....</p> <p>ケムシ 児童作品(短冊)</p> <p>.....</p>	<p>それぞれの題について自分なりにイメージしたことを基に，短い詩をワークシートに書かせる。</p> <p>自作の詩の中からいちばん気に入った詩(一行詩)を選び，短冊に書かせておく。</p>	<p>関：自分でも短い詩(一行詩)を自分で書こうとしている。(ワークシート)</p> <p>支：自作の詩を口頭で発表させた後，題ごとに短冊を黒板に掲示する。</p>
--	---	--

詩の指導で留意したいこと

詩を読むときは「何を読み取っても，どのように想像しても，どう感じてよい」ということを大切にしたい。

- ・同じ詩を読んでも人が違えば見方や考え方，感じ方はさまざまである。どれが正解でどれが不正解ということはない。どのような読み方も成立する。
- ・同じ人が同じ詩を読んでも，ものの見方や考え方が変われば，それまでとは違った受け止め方(解釈)ができるようになる。

詩を書くときは「何をどのように書いてもよい」という前提に立ち，子どもに安心感を与えるようにしたい。

- ・「詩はこう書くものだ，こう書かなきゃいけない」という考え方に縛られてしまうと，自由な発想や表現ができず，固定した見方，書き方しかできなくなる。

ものを見る時は一つの見方だけでなく，いろいろな角度(視点)から見るようにしたい。そうすることで想像が広がり今まで見えなかったものが見えてくる。

- ・相手(人・もの等)の立場でものを見たり，「もしも～だったら」と考えたりすれば，新しい発見ができる。同じ相手を見るときでも見方を変えれば見え方が変わってくる。

詩の指導ではさまざまな読み方を工夫させたい。

- ・黙読，音読，微音読
- ・声の大きさ，間，アクセント，抑揚
- ・個人読み，指名読み，グループ読み，リレー読み，群読

日常的に好きな言葉を集めさせたり，それらを使って短文(一行詩，俳句，短歌を含む)を気軽に作らせたりする機会を多く設けるようにしたい。

- ・言葉とのふれあいが言葉への親しみや興味・関心につながっていく。